

1. 想定地震に係る歴史地震の整理について

本編 2.2～2.3 節で抽出した、各想定地震と対比される歴史地震（【】で表示）を含む埼玉県に被害をもたらした以下の地震について、概要及び埼玉県内の震度分布について個別に整理した。

- ・ 地震 1 : 818 年 関東諸国 【古代の地震・参考として】
- ・ 地震 2 : 878 年 関東諸国 【古代の地震・活断層による】
- ・ 地震 17 : 1649 年 武蔵・下野 【立川断層帯地震】
- ・ 地震 20 : 1703 年 元禄地震 【元禄型関東地震】
- ・ 地震 27 : 1855 年 安政江戸地震 【東京湾北部地震】
- ・ 地震 28 : 1856 年 埼玉県中南部 【立川断層帯地震】
- ・ 地震 29 : 1859 年 岩槻 【関東平野北西縁断層帯地震】
- ・ 地震 36 : 1895 年 茨城県南部（霞ヶ浦） 【茨城県南部地震】
- ・ 地震 39 : 1921 年 茨城県龍ヶ崎付近 【茨城県南部地震】
- ・ 地震 40 : 1923 年 関東大地震（俗称 1 関東大震災、俗称 2 関東地震）
【元禄型関東地震】
- ・ 地震 43 : 1931 年 西埼玉地震 【関東平野北西縁断層帯地震】

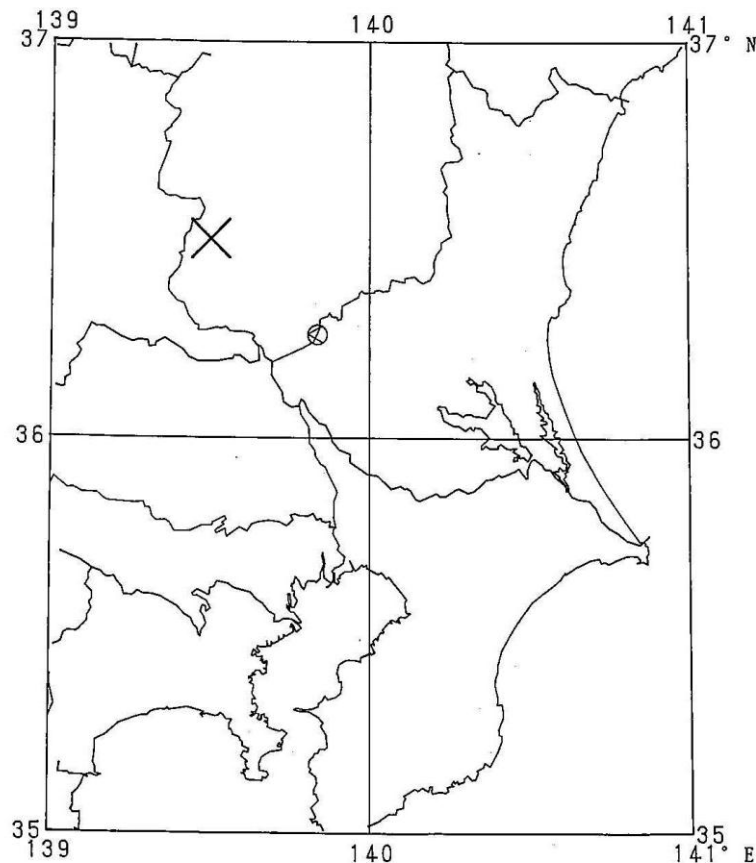
ただし、これらの歴史地震と今回地震動を推計した想定地震とは必ずしも一対一で対応するものではなく、そのため両者の震度分布についても必ずしも一致するとは限らないことに留意する必要がある。

地震 1 : 818 年 関東諸国

地震発生年月日:西暦年月日 818/--/--、和暦元号 弘仁 9 年 7 月--日

- ・ 震央:緯度 (北緯) 36.0~37.0°、経度 (東経) 139.0~140.0°、領海内
- ・ 対応地域名:相模、武蔵、下総、常陸、上野、下野等 都道府県名 群馬、栃木、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川
- ・ マグニチュード 7.5 以上
- ・ 震度情報: 震度 5 以上 群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県各府県、千葉県北部
- ・ 被害情報: 被害面積・規模 B (直径 100~300km)
- ・ 死者数 多
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし
山崩れ谷埋まること数里 (1 里 ≒ 545m)。百姓の圧死者多数。
- ・ 断層情報:なし

参考資料 : 最新版日本被害地震総覧[[416]-2001 宇佐美 龍夫 (2003) 東京大学出版会



818 年 関東諸国の地震の震央位置図

出典 : わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図 p17 社) 日本電気協会 宇佐美 龍夫 (1994)

818年 関東諸国の地震 に関する文書

九年七月。相摸。武藏。下總。常陸。上野。下野等國地震。山崩谷埋數里。壓死百姓不可勝計。八月庚午。遣使諸國。巡省地震。其損害甚者加賑恤。詔曰。朕以虛昧。歛若實圖。撫育之誠無忘。武步。王風猶鬱。帝載未熙。咎徵之臻。此爲特甚。如聞。上野國等境。地震爲災。水潦相仍。人物凋損。雖云天道高遠。不可得言。固應政術有虧。致茲靈譴。自貽民瘼。臧朕之由。薄德厚顏。愧于天下。靜言厥咎。實所興嘆。豈有民危而君獨安。子憂而父不念者也。所以殊降使者。就加存慰。其有因震潦。居業蕩然者。使等與所在官司。同斟酌。免今年租調。并不論民夷。以正稅賑恤。助修屋宇。使免飢露。壓沒之徒。速爲歛葬。務盡寬惠之旨。副朕迺瞻之心。九月辛卯。詔曰云々。比者地震。害及黎元。吉凶由人。殃不自作。或恐渙汗乖越。方失毗心。降茲厚譴。以警勗與。畏天之威。不違寧處。決之龜筮。時行告咎。昔天平年。亦有斯變。因以疫癘。宇內凋傷。前事不忘。取鑒不遠云々。事具前禮部

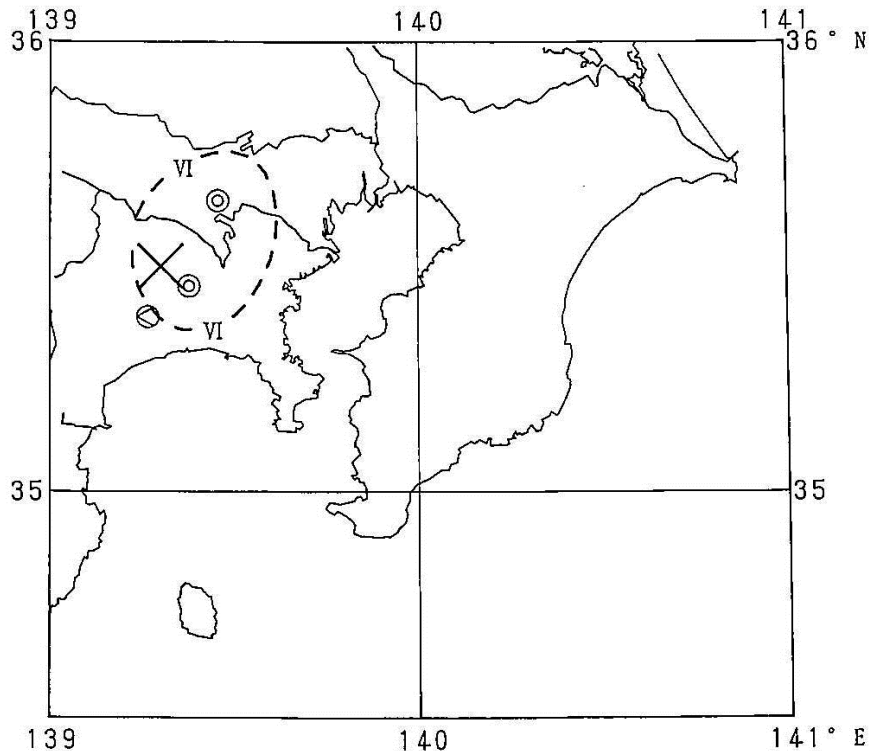
出典：新訂増補国史大系<普及版>類聚国史 第三 pp159-160 黑板勝美編（1979）吉川弘文館

地震 2 : 878 年 関東諸国

地震発生年月日:西暦年月日 878/11/1、和暦元号 元慶 2 年 9 月 29 日、(夜)

- ・ 震央:緯度(北緯) 35.5°、経度(東経) 139.3°、誤差レベル B ($\leq 25\text{km}$)、領海内
- ・ 対応地域名: 関東諸国 都道府県名 神奈川、東京
- ・ マグニチュード 7.4
- ・ 震度情報:震度 6 神奈川県、東京都各中部
- ・ 被害情報:被害面積・規模 B (直径 100~300km)
- ・ 死者数 多
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし
相模・武蔵が特にひどく、5~6 日震動がとまらなかった。公私の屋舎 1 つも全きものなく、地陥り往還不通となる。圧死者多数、相模国分寺の金色薬師丈六像 1 体・挾侍菩薩像 2 体摧破す。国分尼寺の堂舎頽潰す。京都で有感、大山の大山寺堂塔崩壊ともいう。
- ・ 断層情報: 伊勢原断層の活動によるか?

参考資料: 最新版日本被害地震総覧 [416]-2001 宇佐美 龍夫 (2003) 東京大学出版会



878 年 関東諸国の地震の震央位置図

出典: わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図 p17 社) 日本電気協会 宇佐美 龍夫 (1994)

元慶二年九月二十九日(西暦八七八) 関東諸國、地大ニ震ヲ、就中相模、武藏ノ兩國甚シク、地陥リ、公私ノ屋舎破倒シテ一モ全キモノナク、壓死者算ヲ知ラズ、

〔三代實錄〕三十四

九月廿九日辛酉、夜地震、是日、關東諸國地大震裂、相模武藏、特爲尤甚、其後五六日、震動未止、公私屋舎、一無全者、或地窓○類聚國史座ニ作レリ陥、往還不通、百姓壓死、不可勝計、

〔同書〕四十

元慶五年冬十月三日戊寅、相模國國分寺、金色薬師丈六像一體、挾持菩薩像二體、元慶三年九月二十九日、遭地震皆悉摧破、其後火燒損、望請改造、以修御願、又依太政官去貞觀十五年七月二十八日特、以湧河寺爲國分尼寺、而同日地震、堂舎頽壞、請仍舊以本尼寺爲國分寺、詔並許之、

〔武者註〕本朝年代記元慶元年ニ作ル、謬レリ、

＊〔興福寺年代記〕

二〇元 九月大地震

地震17：1649年 武蔵・下野

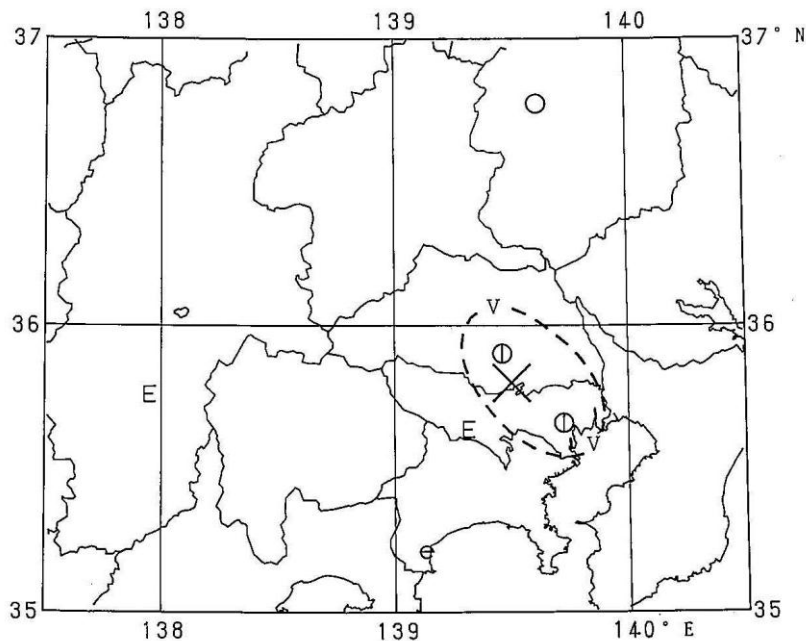
地震発生年月日:西暦年月日 1649/07/30、和暦元号 慶安2年6月21日

- ・ 震央:緯度(北緯) 35.8°、経度(東経) 139.5°、誤差レベル B (≦25km)、領海内
- ・ 対応地域名:武蔵、下野、都道府県名 東京、埼玉
- ・ マグニチュード 7.0±1/4
- ・ 震度情報:震度5～6 東京都東部、埼玉県南部
- ・ 被害情報:被害面積・規模 B (直径 100～300km)
- ・ 死者数 50～100
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし

川越で大地震、町屋700軒ばかり大破、500石の村、700石の村で田畑3尺(約1m)ゆり下る。江戸城二ノ丸石垣・塀破損、その他城の石垣崩れ、藩邸・侍屋敷・長屋の破損・倒潰あり。上野東照宮の大仏の頭落ち、日光東照宮の石垣・石の井垣破損し、八王子・伊那で有感、余震日々40～50回。『玉滴隠見』によれば、このとき、瓦葺が多く倒れたので、コケラ葺になったという。死50人余。余震月を踰(コ)ゆ。
 $rV \approx 60\text{km}$ とすると、 $MV \approx 7.2$ 。

- ・ 断層情報: 立川断層帯の活動の可能性が推定される。

参考資料：新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫 (1997) 東京大学出版会
新編 日本の活断層分布図と資料 活断層研究会編 (1991)
立川断層帯の長期評価について 地震調査研究推進本部 (2003)
立川断層の最新活動について 東郷他活断層研究 15 1～8 (1996)



1649年 武蔵・下野の地震の震央位置図

出典：わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図 p169 社) 日本電気協会 宇佐美 龍夫 (1994)

一慶安二年五月十三日ニ武州川越ニ大

凡雪降其重目ニ竹余亦四十日程有人馬
多死ス

一同年六月九日江戸大地震民屋倒シ其外
諸大名ノ瓦葺悉崩ル因茲人多死ス此時
ヨリ瓦葺ノか皆々コケラ葺ト成
右ノ地震ニ東叡山ノ大佛ノ御頭ヲエリ
落シケレハ何者ヤラニ

ヲ教迎ノミクシハ前ハ子ハニサシ
是ヲ教ノ自身成佛

出典：「玉滴隠見」（国立国会図書館
近代デジタルライブラリー）

出典：増訂大日本地震史科 第一卷
p797-798 文部省震災豫防評議會

慶安二年七月二十五日（増補）武蔵國地
強ク震ヒ、江戸城平川口腰掛、春屋、及ヒ
雑司谷藥園ノ茶室等破損シ、川崎驛ノ人家
百軒潰レタリ、

〔人見私記〕

七月廿五日、辰刻ヨリ甚雨、午ノ下刻地
震甚シ、未下刻少地震ス、且雑司谷御藥
園御茶屋、依令破損、為修復、奉行堀惣
兵衛、花房又七郎被仰付旨、徳綱申渡、
次ニ平川口腰掛、並御春屋破損奉行、小
笠原久左衛門、中島權右衛門工被仰付旨、
同人申渡ス、且地震ニ付、川崎町屋百間
程請由、夜ニ入伊奈半十郎注進ス、

〔家来略〕

七月廿五日、午刻地震、

〔御侍方萬年記〕

七月廿五日、晝地震、

〔慶安日記増補〕

七月廿五日、午下刻地震、諸大名根来御

番所迄出仕、當番久世三四郎、大御所
部ニ對面シ、退出ス、

同廿六日、中根壹岐守○ヲ日光へ被遣
御宮地震ニ別條無之哉否ヲ尋サセラル、
ハ朔歸府、御宮無恙由申ス、

*〔慶安年録〕

一雑司ヶ谷御藥園之御茶店、依令破損、
為修復奉行堀京衛、花房又七郎被仰付之、

*〔大猷院實記〕

○廿五日○今朝大雨、午刻又大地震、
よて中根壹岐守正盛に双巖院蒙規をそへ
て日光山につかはさる、けふの地震によ
り川崎驛の民屋百四五十軒、寺七宇崩頽
し、その邊四五村民屋破れ倒れ、人畜毀
傷する者多きよし、代官伊奈半十郎志治
より注進す、

*〔山鹿素行先生日記〕

七月二十五日、未刻、大地震、

地震 20 : 1703 年 元禄地震

地震発生年月日 西暦年月日 1703/12/31、和暦元号 元禄 16 年 11 月 23 日、午前 2 時頃

- ・ 震央緯度（北緯） 34.7° 経度（東経） 139.8°、誤差レベル B（≦25km）、領海内外区分 0（領海内）
- ・ 対応地域名 江戸、関東諸国、都道府県名 東京、静岡、神奈川、千葉、埼玉
- ・ マグニチュード 7.9~8.2、震源の深さ（km）不明、地震タイプ P（プレート型）
- ・ 震度情報:震度 5（長野県南部）、震度 5~6 埼玉県南部、（山梨県中部、栃木県北部）
震度 6~7 東京都中部（町田市）、震度 7 千葉県南部、神奈川県南部、静岡県東部（熱海）
- ・ 被害情報:被害面積規模 A（直径 100km 以上）、全壊 22750、半壊 997、焼失 625、流失 5963、死者 10367
- ・ 被害等級 IV（激震区域の平均半径が 50 km にも達するもの。著しい断層系があらわれる。広区域の地盤の上下変動も気づかれる。例、大正 12 関東大震災、明治 24 濃尾大地震）
- ・ 津波情報:波源域房総沖、津波階級 3（波高 10~20m の津波で、400km 以下の海岸線に顕著な被害）

参考資料：新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫（1997） 東京大学出版会

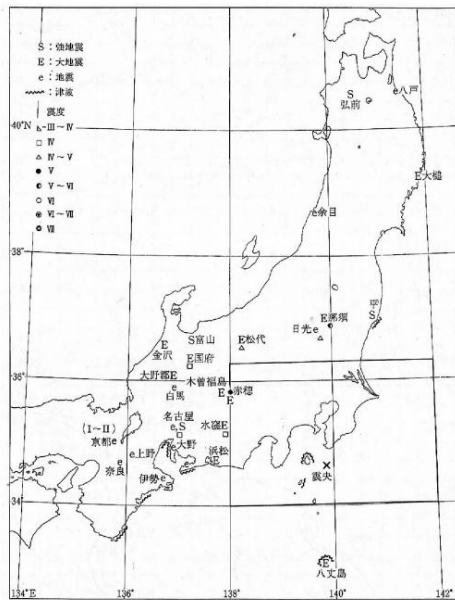
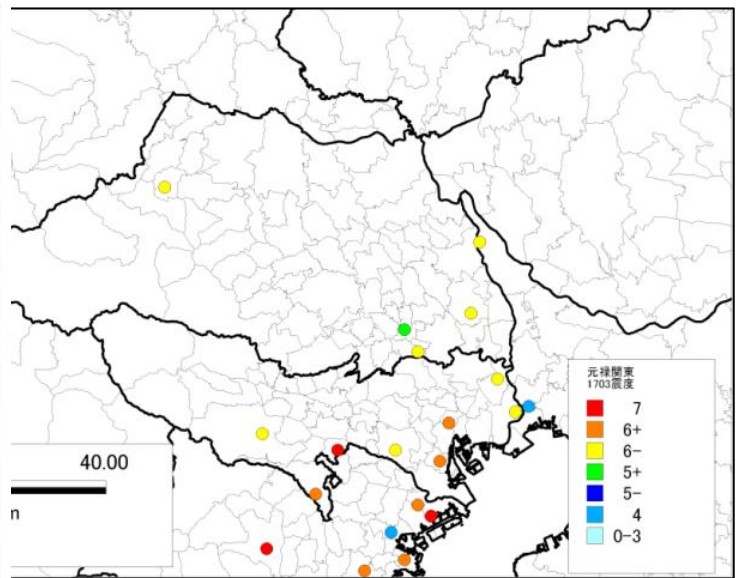


図 149-1A 元禄地震の震度分布図 (1)

震度分布図



埼玉県拡大図

出典：わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図 p255
社）日本電気協会 宇佐美 龍夫（1994）

〔岩槻市史料 第九巻〕
〔忠貞公治世会所日記序〕

一、同十六年御敵の孝候御本御用被仰付六月八日佐治久助并山本弥四郎・野原亭右衛門小役人足輕三人御中間三人武州之内郷島村へ被遣十一月四日罷帰（江戸中野公館御本殿へ納納）同年十一月十八日江戸四谷堀町へ出火同月廿二日夜丑之刻江戸大地震御屋敷孝通御長屋控三間御御徒士ノ者看人御足輕一人死、御書院柱等折大分破損依之御用番阿部豊後守様へ御願被遊同廿九日青山御屋敷江御移り被遊候御家中少々御上屋敷ニ相毀青山へ引越也

一、山里御殿火消御番ニ付早速御丸下居江御出被遊候

一、地震ニ付翌日為嶽御機嫌諸大名憂被無用之由ニ付御登城無之

一、同廿九日小石川本戸様御屋敷々未刻出火御成御殿宛突毀殿類火夜ニ入丑之刻鎮

一、地震ニ付破損大分ニ付出石々大工大勢被為召呼年内ニ罷下り御普請有之候、御上屋敷并青山小屋敷翌年ニ至御普請出来也

〔明治百年記念 野上町郷土史年表〕 ○埼玉縣表部
十二月二十二日夜八ツ頃（午前三時）大地震あり

〔蕨市の歴史 第二巻〕 ○埼玉縣

元禄十六年の大地震は、十二月二十二日初夜、雷光ひらめき雷鳴のごとき音をたてて大地が震動し、窓はくじけ、家屋は激浪に漂うがごとくに倒れてほとんど倒壊し、地裂けて砂石は水を吐きたし、各地より火災起こり、人々の被害はまさに歴大な数にのぼった。以上は江戸市内の状況であるが、江戸近郊農村の場合も例外ではなく、陳宿など「田舎にては竹藪へ引籠」って難を避け、恐怖におびえた。

〔越谷市史 第一巻〕

ことに元禄十六年の地震は大きなもので、『元禄・宝永参勝巻二』（川上氏上）によると、「十二月二十三日曾より雷強く、夜八ツ時（午前二時）地鳴る事雷の如し、大地震、戸障子たお

れ、家は小船の大波に動くが如く、地二、三寸より所によりて五、六寸程割れ、砂をもみあげあるいは水を吹出したる所もあり、石垣壊れ家敷壊れ、穴敷揺りあげ死人夥し、死亡のもの小田原より品川まで一万五〇〇〇人」とある。このときの越谷地域の被害はつまびらかでないが、越巻中新田「産社祭礼帳」には「大地震」であったと記されている。

〔越ヶ谷市袋山細沼家文書〕 ○埼玉縣
明治大学理学部附属

乍恐以口上書を奉願上候

一越ヶ谷領之内袋山村荒川通水除災、去年精月廿三日之地震ニ而堤被損仕候ニ付、先差而當奉御普請奉願上候所ニ、右御書上ケ仕候内式百三拾四間堤もゞ込、殊ニ堤内上中留ともニ堤外柳原江土もゞ出シ申候ニ付、右之もゞ出シ候土を以堤上直根腹付ケ共ニ被為遊被下候様ニ奉願上候、右之御普請揚堤岸ニ諸々々堀筋并ニ柳原一通御座候所へ土もゞ出シ直申候得へ、同村左ニ右衛門組下百姓一両人ニ而右之士為取申間敷候と申殊ニ堤内上中留土為取申度候と申候ニ付、百姓共難儀ニ奉存候、堤内之士を以御普請被遊被下候ハ、満水之時分へ堤よりても罷成可申候かと乍恐奉存候、与角右之場所御見分之上何分ニ成共御普請出来仕候様ニ奉願上候、若御普請御延引ニ罷成候へハ少々之出水も百姓居立而無御座候ニ付、何ともめいわくニ奉存候間、御慈悲ニ御見分之上御普請被

為仰付被下候へ難有奉存候 以上

越ヶ谷領

元禄十七年申ノ
二月

御支配様

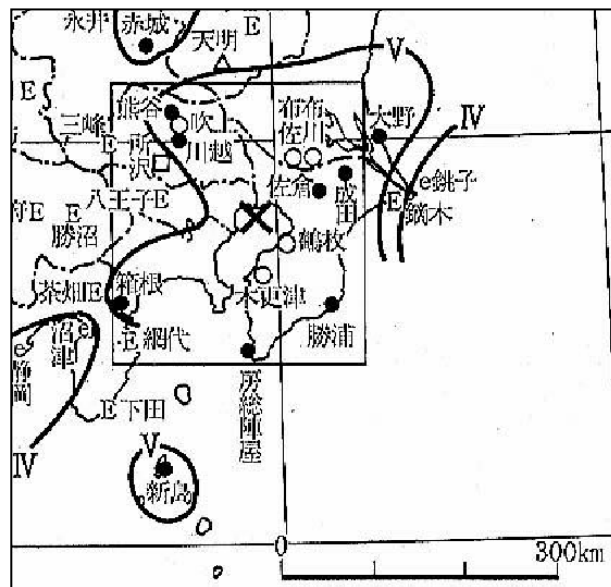
- 三左衛門◎
- 仕左衛門◎
- 吉兵衛◎
- 権右衛門◎
- 四郎兵衛◎
- 半兵衛◎
- 新左衛門◎
- 権兵衛◎
- 源左衛門◎
- 治左衛門◎
- 左左衛門◎
- 市郎兵衛◎
- 伝左衛門◎
- 名主 金兵衛◎

地震27：1855年 安政江戸地震

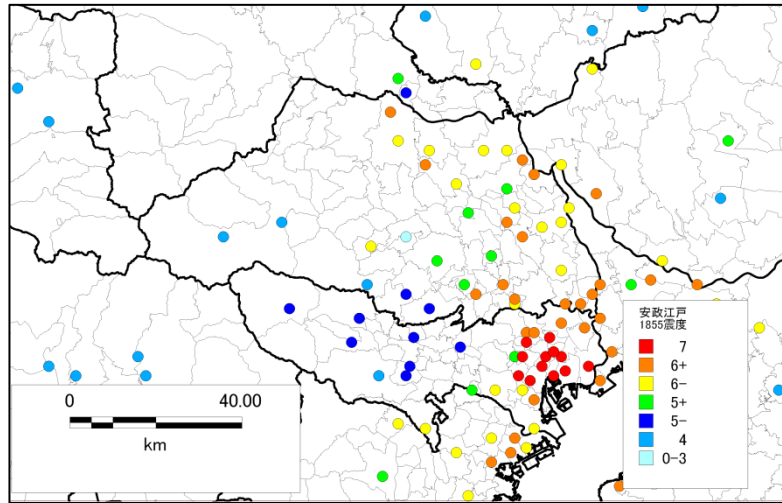
地震発生年月日、西暦 1855/11/11 午後 10 時頃、和暦元号 安政 2 年 10 月 2 日、旧暦時刻夜四ツころ

- ・ 震央 緯度（北緯） 35.65°、経度（東経） 139.8°、誤差レベル A（ $\leq 10\text{km}$ ）、領海内
- ・ 対応地域名 江戸及び付近、都道府県名 東京、千葉、埼玉、茨城、神奈川
- ・ マグニチュード 6.9 ± 0.1
- ・ 震度情報
震度 5 群馬県南部、（長野県）、震度 5～6 栃木県南部
震度 6 千葉県中西・北西部、神奈川県東部、埼玉県南部、茨城県南部
震度 6～7 東京都東部
- ・ 被害情報:被害面積 規模 A（直径 100km 以上）
死者数 7468、全壊 20237、半壊 5332、分類不能 31 棟（潰・半）、28（半・損）、17（潰・半・損）
被害に関する備考 火災のため潰の上焼失多し・津波情報:※襲来地名／最大波高データなし
- ・ 備考:液状化:幸手（サッテ）付近。倒れない家もすべて潰同様になった。

参考資料：新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫（1997） 東京大学出版会

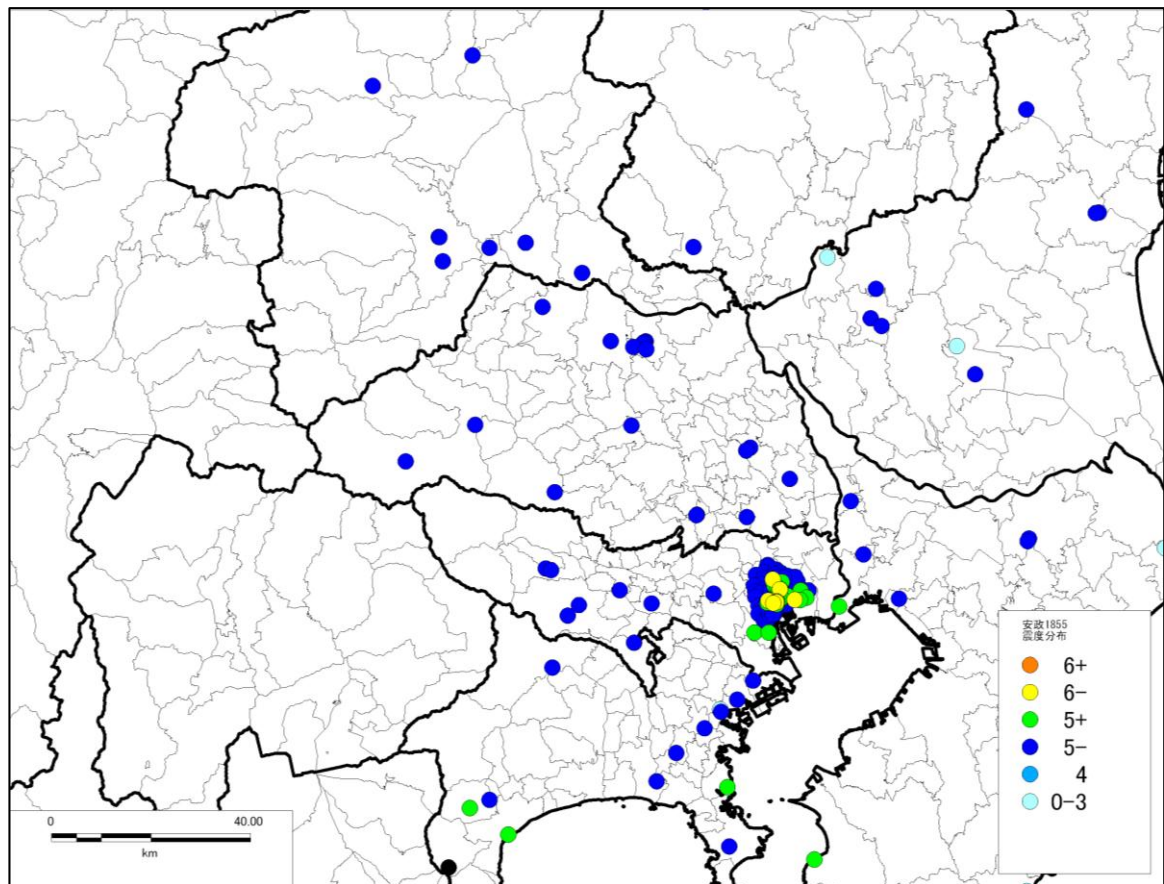


震度分布図



埼玉県拡大図

出典：わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図 p580 社) 日本電気協会 宇佐美 龍夫 (1994)



1855年 安政江戸地震 都司先生震度分布図

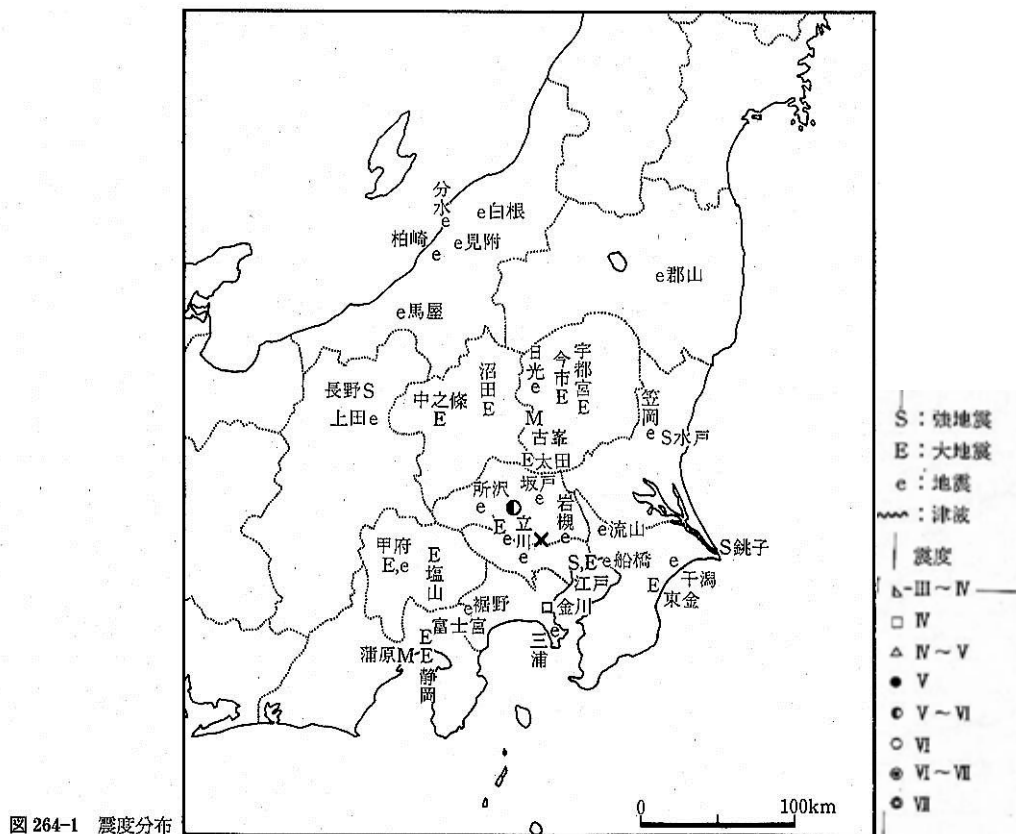
出典：都司委員 (埼玉県地震被害想定調査検討委員会) 提供データを基に作成

地震28：1856年 埼玉県中南部

地震発生年月日:西暦年月日 1856/11/4、和暦元号 安政3年10月7日、旧暦時刻表示 朝五ツころ

- ・ 震央:緯度(北緯) 35.7°、経度(東経) 139.5°、誤差レベルB (≦25km)、領海内
- ・ 対応地域名:江戸、立川、所沢、都道府県名:埼玉、東京、マグニチュード 6.0~6.5
- ・ 震度情報:震度5埼玉県中南部、震度5~6東京都中北部
- ・ 被害情報:被害面積・規模C(直径30~10km)、全壊19
江戸で壁の剥落、天水桶の水こぼる。積瓦落ちて23人傷。立川で天水の水こぼれ、桑川(クガワ)(東京都)で家屋倒壊15という。
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし
- ・ 断層情報:立川断層帯の活動の可能性が推定される。

参考資料:新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫(1997) 東京大学出版会
新編 日本の活断層分布図と資料 活断層研究会編(1991)



1856年 震度分布図

1856年 埼玉県中南部 に関する文書

安政三年十月七日 (八癸・二巳) (江戸) 甲斐・関東・越後・信濃・駿河

〔役向日記 蕨宿〕
 七日 晴天暖過候 朝五ツ前頃地震いる一昨年霜月四日
 〆大く候郡々家潰へく旨覚悟致候

〔万代記録帳〕〇岩槻市黒谷 杉崎家文書
 一 当安政三辰十月七日辰上刻ケ成之地震人々庭江逃出し
 申候尤昨年よりは少々ニ而潰所ハ無之候

〔所沢市史〕
 一八五六 安政丙辰 三年
 大地震所沢ニモ大被害アリ糸川倒壊家屋十九家所沢ニテ
 拳金見舞ス(家蔵)

〔三峯神社日鑑〕〇秩父
 十月七日 晴天 辰ノ上剋地震

〔須田家日記〕〇飯能市小瀬戸
 七日 晴 五ツ時地震(後略)
 八日

出典：新収日本地震史料 第五卷（自弘化元年 至明治五年）pp258-259
 東京大学地震研究所編（1985）日本電気協会

安政三年十月七日 (八癸・二巳) (江戸)
 〔林家日記〕〇埼玉県坂戸市赤尾
 (家内見聞記録覚帳)
 辛卯十月七日 晴天朝曇 地震

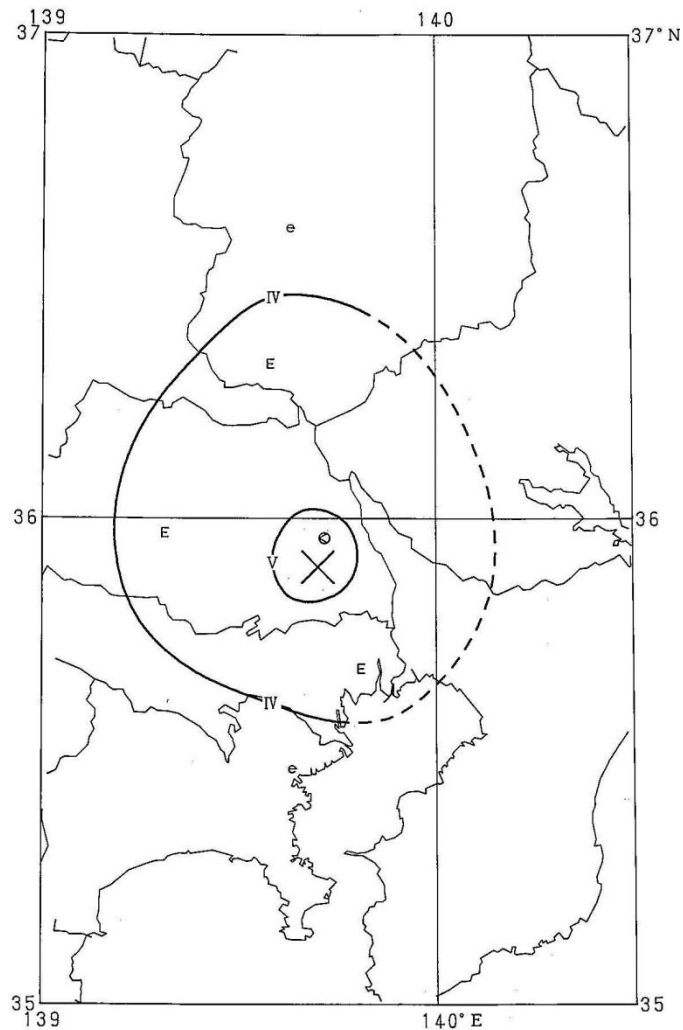
出典：新収日本地震史料 補遺 p1015-1016（自推古天皇三十六年 至明治三十年）
 東京大学地震研究所編（1975）日本電気協会

地震 29 : 1859 年 岩槻

地震発生年月日:西暦年月日 1859/1/11、和暦元号 安政 5 年 12 月 8 日、旧暦時刻表示 昼
午ころ

- ・ 震央:緯度 (北緯) 35.9°、経度 (東経) 139.7°、誤差レベル B ($\leq 25\text{km}$)、領海内
- ・ 対応地域名:、都道府県名:、マグニチュード 6.0
- ・ 震度情報:
- ・ 被害情報:
居城本丸櫓・多門その他ところどころ破損。江戸・神奈川・佐野・鹿沼・水戸・太田・鳩山村で有感。
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし
- ・ 断層情報:。

参考資料:最新版日本被害地震総覧 [416]-2001 宇佐美 龍夫 (2003) 東京大学出版会
わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図 p613 社)日本電気協会 宇佐美 龍夫 (1994)



1859 年 岩槻の地震 震度分布図

1859年 岩槻の地震 に関する文書

安政五年十二月八日 (二八五・二二)〔岩槻〕江戸・神奈

川・下野↓九日江戸

〔藤岡屋日記 七十一〕○岩槻カ

(安政六年二月五日の条)

大岡兵庫頭

先達て領分地震にて居城本丸櫓多門其外所々大損に付拝借の儀相願可為難義と被 思召当時御事多には候得共出格の訳を以金千両拝借被仰付之

右芙蓉の間において掃部頭老中列座同人申渡之

御中間頭

御掃除頭

池永幸左衛門跡

矢部斧右衛門

御中間目付

御中間頭

矢村斧左衛門跡

金田□三郎

右被仰付旨於焼火間若年寄中出座牧野遠江守申渡之

二月五日

出典：新収日本地震史料 第五卷 (自弘化元年 至明治五年) p398
 東京大学地震研究所編 (1985) 日本電気協会

安政五年十二月八日 (二八五・二二)〔岩槻〕
 〔安政五年戊午日記〕○埼玉県比企郡大豆戸村(現鳩山村)
 八日 午牌地大震(在大豆戸)

出典：新収日本地震史料 補遺 p1097 (自推古天皇三十六年 至明治三十年)
 東京大学地震研究所編 (1975) 日本電気協会

地震36：1895年 茨城県南部（霞ヶ浦）

地震発生年月日:1895/01/18 22:48、和暦元号 明治28年

- ・ 震央:緯度（北緯） 36.1°、経度（東経） 140.4°、誤差レベル B（ ≤ 25 km）、領海内
- ・ 対応地域名 霞ヶ浦付近、都道府県名:茨城、東京
- ・ マグニチュード 7.2
- ・ 震度情報
震度5 茨城県南部、東京都東部、埼玉県東部、千葉県北西部、(栃木県、神奈川県東部)
- ・ 被害情報:被害面積・規模 B（直径 100~300km）、死者数 6、全壊 52、半壊 76、
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし

参考資料：新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫（1997） 東京大学出版会

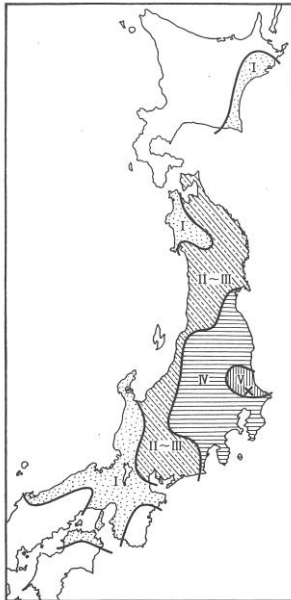
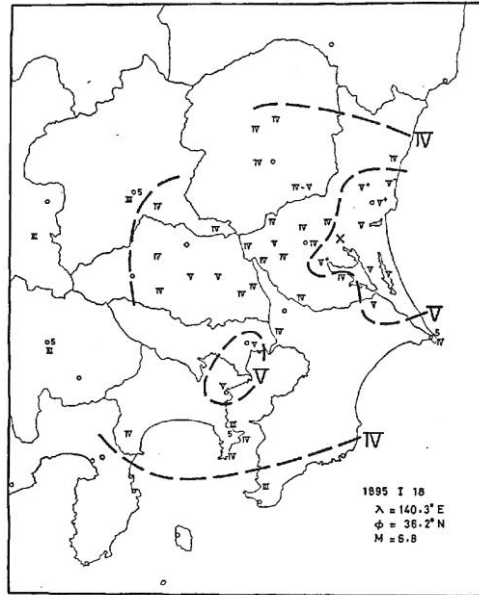


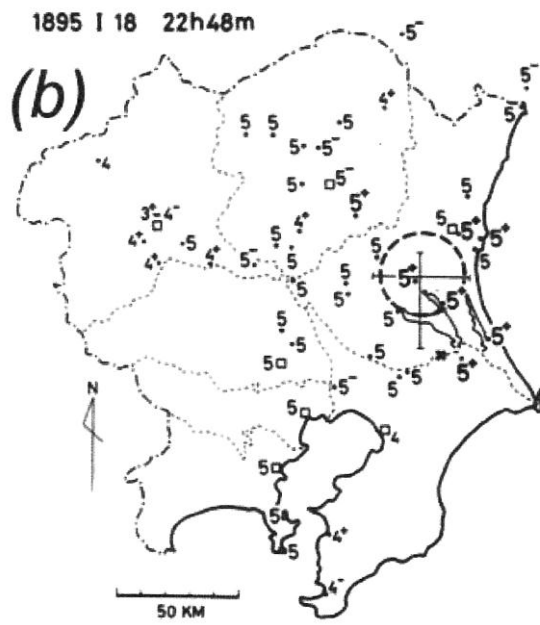
図 312-1 震度分布 [気象庁による]

宇佐美（2003）



付-8図 明治28年1月18日の地震の震度分布

宇佐美（1976）



石橋 (1975)

地震39：1921年 茨城県龍ヶ崎付近

地震発生年月日:西暦年月日 1921/12/08 21:31、和暦元号 大正10年

- ・ 震央:緯度(北緯) 36.0°、経度(東経) 140.2°、誤差レベルB(≦25km)、領海内
- ・ 対応地域名:茨城県龍ヶ崎付近、都道府県名:千葉、茨城、栃木
- ・ マグニチュード 7.0
- ・ 震度情報:なし
- ・ 被害に関する備考:被害は小さく広範囲、震度は最大でIV~Vくらいか。
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし

参考資料:新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫(1997) 東京大学出版会

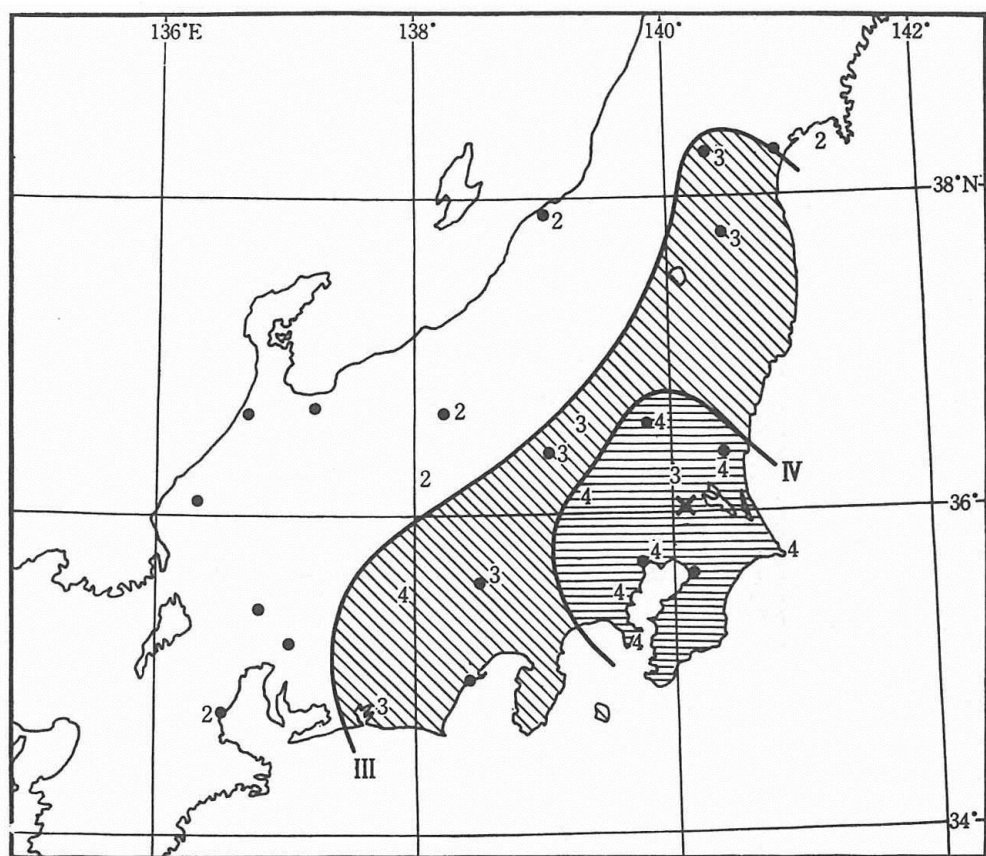
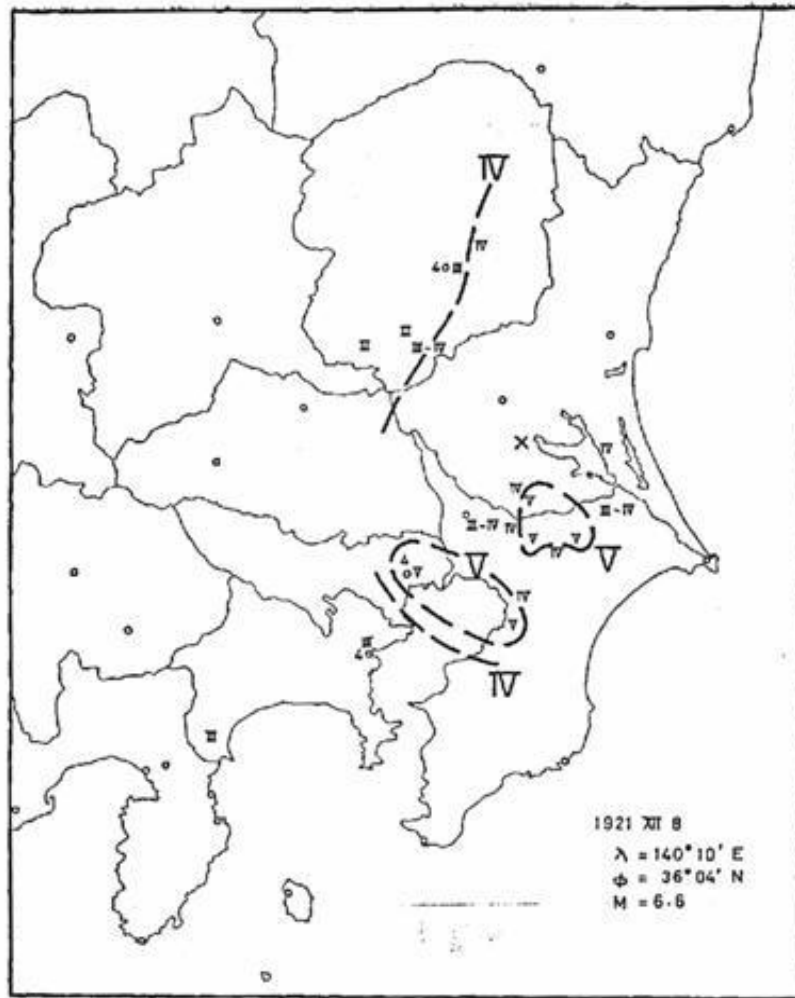


図 423-1 震度分布

宇佐美 (2003)



付一15図 大正10年12月8日の地震の震度分布

石橋 (1976)

地震40：1923年 関東大地震（俗称1 関東大震災、俗称2 関東地震）

地震発生年月日:西暦年月日 1923/09/01 11:58、和暦元号 大正 12 年

- ・ 震央 緯度（北緯） 35.2°経度（東経） 139.3°誤差レベル B～C（≦25～50km）、領海内
- ・ 対応地域名：関東南部、都道府県名：東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、群馬、栃木、山梨、静岡
- ・ マグニチュード 7.9、地震タイプ P（プレート型）
- ・ 最大余震マグニチュード 7.3、最大余震発生日 1924/01/15 05:50（135d17h53m）
- ・ 断層情報:断層名称 下浦断層等（副断層）
- ・ 震度情報:震度 5 茨城県中・南部、群馬県南部、栃木県中・南部、長野県東部
震度 6 埼玉県東部、東京都東部、（山梨県中部）、静岡県東端
震度 6～7 神奈川県、千葉県南部
- ・ 被害情報:被害面積・規模 A（直径 100km 以上）
- ・ 死者数 142807、全壊 128266、半壊 126233、焼失 447128、流失 868
- ・ 津波情報:波源域相模湾、津波階級 2（波高 4～6m の津波で、家屋や人命の損失がある。）

羽鳥階級 2（波高 4～6m で、多数の家屋が流出・浸水し、死者がでる。300km の範囲で 1.5m 程度の波高がある。）、M 比較 N（標準的な津波マグニチュード）

参考資料：新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫（1997） 東京大学出版会

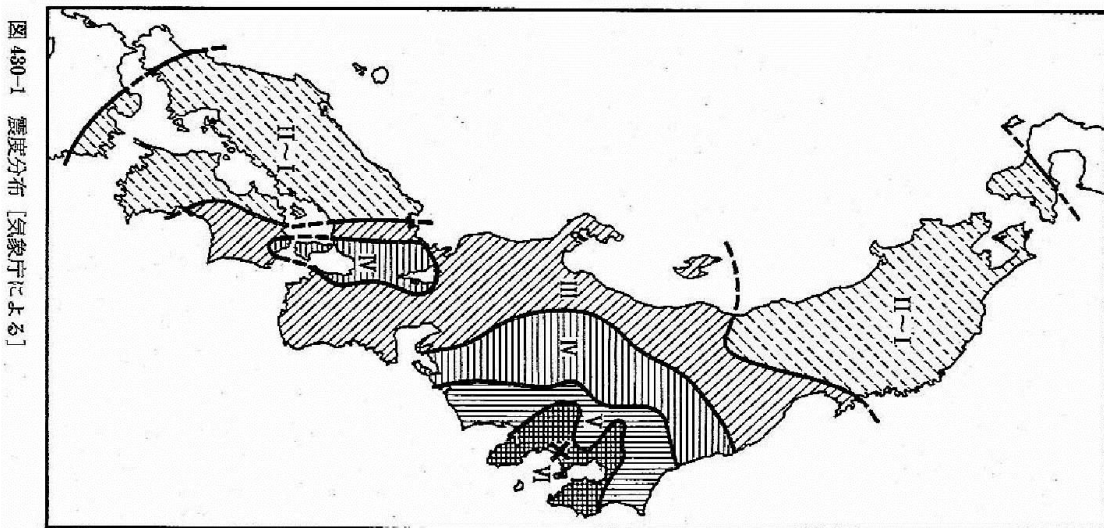
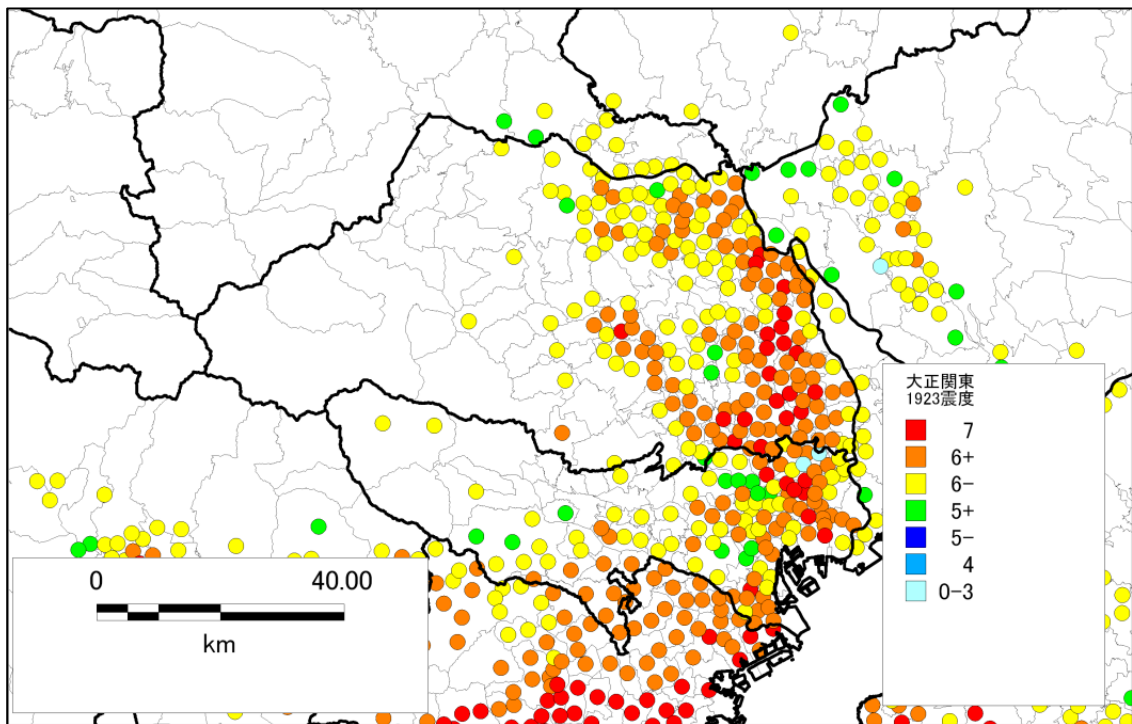


図 430-1 震度分布 [実線による]

震度分布図



埼玉県拡大図

出典：関東地震（1923年9月1日）による木造住家被害データの整理と震度分布の推定
 日本地震工学会論文集諸井・武村（2002）

地震43：1931年西埼玉地震

地震発生年月日:西暦年月日 1931/09/21 11:20、和暦元号 昭和6年

- ・ 震央:緯度(北緯) 36.15°、経度(東経) 139.23°領海内
- ・ 対応地域名:埼玉県中部、都道府県名:埼玉、群馬
- ・ マグニチュード 6.9、震源の深さ(km) 0
- ・ 余震情報:最大余震マグニチュード 5.6、最大余震発生日 1931/09/28 13:54 (7d02h34m)
- ・ 震度情報

震度5 埼玉県、東京都、神奈川県東部、千葉県西部、茨城県西部、栃木県南部、群馬県南部、山梨県東部、(長野県中部)

- ・ 被害情報:被害面積・規模 A (直径100km以上)、死者数16、全壊76、半壊124
- ・ 津波情報:襲来地名/最大波高データなし

参考資料:新編日本被害地震総覧 増補改訂版 CD-ROM 宇佐美 龍夫(1997) 東京大学出版会

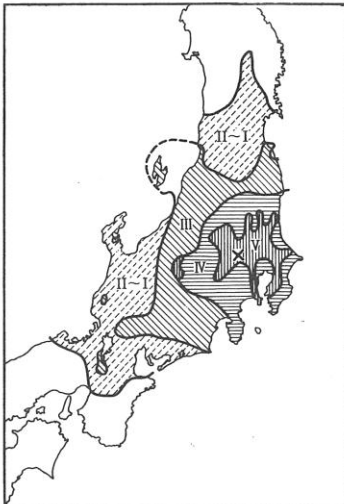


図466-1 震度分布 [気象庁による]

宇佐美(2003)

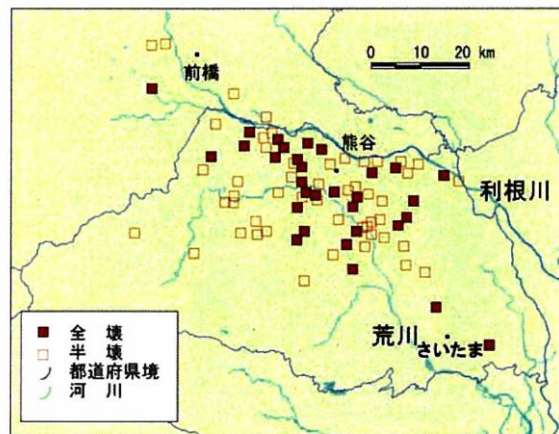


図5-19 西埼玉地震の家屋の被害状況

[那須(1931)から作成]

地震調査研究推進本部(2009)

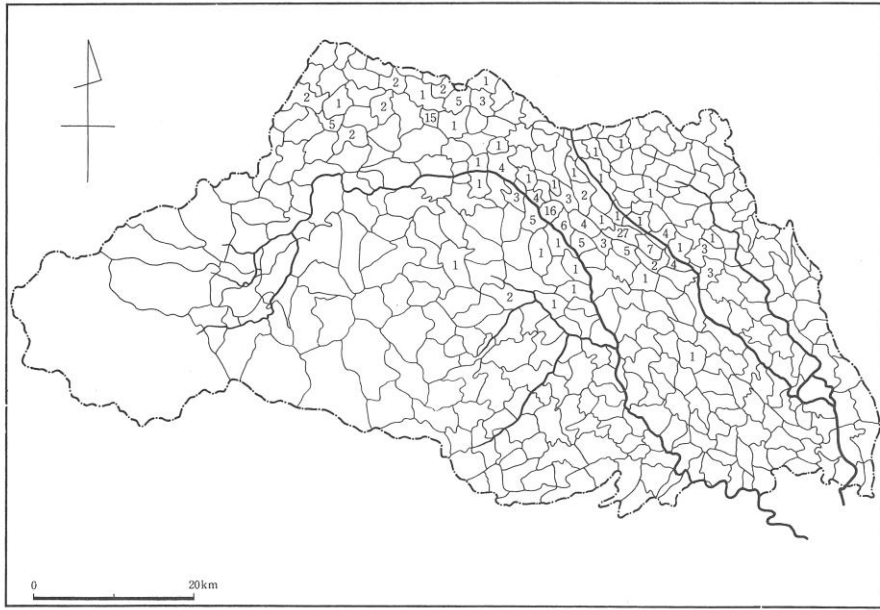


图 466-4 町村別家屋（住・非住）全潰数 [埼玉県熊谷測候所, 1931]

宇佐美 (2003)

